

## 第56回神戸電鉄粟生線活性化協議会

日時：令和8年2月16日（月）  
午前10時10分～午前11時30分  
場所：三木市立教育センター 4階 大研修室

### ○事務局

第56回目となります神戸電鉄粟生線活性化協議会を開催いたします。

本日は、何かとお忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

私は、協議会の事務局を務めております三木市都市整備部交通政策課長の●●と申します。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、開会に当たりまして、協議会の会長でございます●●市長から御挨拶を申し上げます。

### ○会長

皆さん、こんにちは。

神戸電鉄粟生線協議会第56回目の開催となります。皆様がたには、本当に公私御多忙の中、この協議会に御参加いただきまして、会長としてまず厚く御礼申し上げます。

本年度3回目となる本日の協議会におきましては、式次第に書いておりますように、神戸電鉄粟生線地域公共交通計画の更新の方向性について御審議いただくことになっております。

また、併せまして、昨年、令和7年11月に実施しました神戸電鉄粟生線活性化の取組等に対する支援に関する国への要望を実施しましたこと、直近の粟生線の利用状況や本年度の協議会事業について御報告させていただきます。

直近の話題として、小野市では1月24日から3月29日にかけて、好古館で「ビッグひなまつり」、本市では2月14日から3月8日にかけて、堀光美術館で「デザイン&アート 三木染形紙展」を開催しています。また、3月14日、15日の土曜日と日曜日には「山田錦まつり」、5月13日、14日の平日になりますが、第9回三木市レディースゴルフトーナメント」の開催を予定しており、これらが粟生線の利用促進にもつながるものと期待しています。

あらためまして、本日もご審議いただく内容でもお伝えしましたとおり、神戸電鉄粟生線地域公共交通計画の更新に向けた協議がスタートする予定でもありますので、引き続きこ

の会の趣旨であります行政、交通事業者、地域住民等の関係者が一体となって、粟生線エリアの活性化に向けた取組を進めてまいりたいと思いますので、今日も忌憚のない御意見をお聞かせいただければと思っております。どうか最後までよろしくお願い申し上げ、主催者の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

○事務局

ありがとうございました。

それでは、続きまして、本日代理でお越しいただいている委員様の紹介をさせていただきます。

～委員紹介～

なお、本日、本協議会の委員25名のうち、出席は17名で、協議会規約の第8条第4項の規定により、本会議は成立しておりますことを報告させていただきます。

それでは、ここからの進行につきましては、●●会長にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○会長

それでは、私から進めさせていただきます。

会議次第の2、議事事項であります神戸電鉄粟生線地域公共交通計画の更新の方向性についてということで、まずは資料1により事務局から説明をお願いします。

○事務局

交通政策課の●●です。

御説明は着座にてすすめさせていただきます。

神戸電鉄粟生線地域公共交通計画ですが、現計画が令和9年度末で終了します。これに伴いまして、次に掲げる方向性により現計画の更新として進めて参りたいと考えています。まず現計画の更新の必要性ですが、沿線人口の減少やコロナ禍を経た生活様式の変化に伴い、神戸電鉄粟生線の利用者数がコロナ禍前に戻っていないことだけでなく、人手不足・物価高騰など公共交通を取り巻く環境の厳しさが増していることから、今後の粟生線の維持・活性化を図るために行政・事業者・沿線住民が一体となった継続的な施策の実施もしくは見直しが必要となっています。また、現計画が策定から10年後の2032年度の将来を見据えていることから、計画の新たな策定ではなく計画を更新してまいります。2つ目の計画更新に向けた協議として、本協議会は活性化再生法の規定に基づく計画の策

定に関する協議等を行うことを目的に設置された法定協議会でございます。ですから、現計画の更新に向けた協議については、本協議会にて行うものと考えております。

3つ目。現計画の方針の今後の進め方でございます。

実務的かつ専門的な見地から議論を行いたいと考えておりまして、現計画の策定時と同様に、協議会規約第10条の規定に基づきまして、協議会のところに部会を設置することを考えております。

なお、部会メンバー、(1)のところですね。部会メンバーにつきましては、国、県、沿線市及び交通事業者等を部会のメンバーといたしまして、日常生活に必要不可欠な交通手段の確保のみならず、まちづくりの観点からも交通施策の検討が必要となることから、沿線3市のまちづくり、都市計画担当につきましても参画するものと考えております。

なお、2つ目といたしまして、この部会で話し合った内容につきましては、直後に開催されます協議会において素案検討の進捗状況等を報告いたしまして、協議会の意見も十分に聞いた上で計画の素案を策定するという進め方と進めていこうと考えております。

4つ目といたしまして、更新の時期につきましては、来年度、令和8年度と再来年度、9年度でございます。

5つ目、計画の名称でございますが、現計画が策定したときに、10年後を見据えた計画を策定しているということから、名称につきましては、引き続き「神戸電鉄粟生線地域公共交通計画」とするものでございます。

議事事項1号の説明は以上でございます。

○会長

はい、ありがとうございます。

ちょっと確認ですが、会長が言うのも失礼なんです、この計画は令和10年度から令和14年度までの5か年計画でよろしいですね。

○事務局

はい、そういうことでございます。

○会長

それで、1番の現計画の更新の必要性のところ、ここだけ10年後の2032年度の将来ですから、これ、2032年度というたら、令和14年度でいいですね。

○事務局

はい。

○会長

はい、すいません。ということで説明をさせていただきました。

何か御意見がございましたら、よろしく願いいたします。

(「なし」の声あり)

○会長

よろしいですかね、はい。これについては、粛々と進めさせていただきます。また、後で何か思いついたことがありましたら、また遡って質問していただいたら結構でございます。

取りあえずは、報告事項に進まさせていただきます。

まずは、毎年行っております国要望についての報告ということで、事務局からお願いいたします。

○事務局

失礼いたします。資料2を御覧ください。

神戸電鉄粟生線活性化の取組等に対する支援に関する国への要望の実施について報告いたします。

1番の要望の趣旨につきましては、前回の協議会で御承認いただいたとおりとなっております、(1)の粟生線の運行継続を可能とする長期的視野に立った財政支援など、全5項目となっております。

神戸電鉄粟生線活性化協議会として、●●会長、●●副会長、●●委員、●●委員に令和7年11月6日に要望活動を行っていただきました。

要望先につきましては、資料2、国土交通審議官以下4名のかたとの面会をはじめ、●●国土交通副大臣、●●大臣政務官、●●事務次官、●●鉄道局長に要望書を手渡すとともに、国会議員のかたや国土交通省、財務省の幹部などに要望をさせていただきました。一番最後のページに、一部ではございますが、要望活動時の写真を掲載しております。

このたびの要望活動におきまして、財務省からは、国土強靱化実施中期計画が来年度から5年間でおおむね20兆円規模で実施予定。皆さんの要望に応えられるよう進めていきたい。また、国土交通省のほうでは、人員確保や人材育成に取り組んでいるところだが、地域の皆さんの声を聞きながら、効果的な方法を考えていきたいなどといったコメントをいただいております。

資料2の報告につきましては以上となります。よろしくお願いいたします。

○会長

はい、これについて何か御意見、御質問等ありましたら、挙手をお願いいたします。

(「なし」の声あり)

○会長

これにつきましても、毎年、定期的というか、継続して国への要望をさせていただいておりますので、御報告をさせていただきます。よろしいですか。

(「異議なし」の声あり)

○会長

はい、では、続きまして、粟生線の利用状況ということで、神戸電鉄さんからよろしくをお願いいたします。

○●●委員

神戸電鉄、●●でございます。

平素は、弊社の粟生線の活性化のために御尽力を賜っておりますことをこの場でお礼申し上げます。

それでは、早速でございますけれども、資料3に基づきまして、粟生線の利用状況について御説明をさせていただきたいと思っております。

以後、着座で御説明をさせていただきます。

まず、前回と同様ですけれども、資料の1ページ目、2ページ目、3ページ目に及びまして、2025年度の実利用者数の月別の推移、それから券種別の推移というものを御説明させていただきます。今回は、8月までの利用状況について御説明をさせていただきますので、それ以降、9月から12月を追加させていただきます。

前回の説明でも御説明させていただきましたけれども、コロナからの回復というものについては、もうこのめどについてはほぼ一巡をしておるという状況でございます。その中で今年度の大きな特徴といたしましては、4月から10月まで大阪・関西万博が開催されました。その影響が4月から10月に見られるということでございます。残念ながら、万博に来られたかたが粟生線の沿線に来られたというのは、微々たるものだというふうに分析しておりますけれども、ただ、粟生線の沿線から万博に行かれたかたがこの期間で一定数おられるということが分かっております。

ただ、実数については、なかなか全ての利用状況を把握できませんので、実数について

は、どれぐらい増えてるかということとは分からないんですけども、唯一阪神の九条乗換え、弊社の沿線から阪神を利用されて、なんば線の九条から中央線に乗換えをされたお客さんの数というのが、これが分かってございまして。これが万博前に比べると、4倍から5倍に増えてるということでございまして、増えた人というのは、明らかに万博に行かれていますのかなと思いますので、一定数、やはり沿線から行かれておるかたがおられるということですので。

ただ、九条乗換えだけではなくて、三宮からバスで御利用とかいうこともありますので、それらの数字については、把握ができてないというような状況でございます。

このような状況を踏まえますと、10月まで非常にいい成績になっておるところが伺えるかなというふうに思います。

それから、11月になりますと、2ページ目のところを見ていただきますと、24年度との比較で、マイナス4.3%と、ほかの月に比べると、大きなマイナスでございます。ただ、これは、万博がなくなったからということではなくて、11月につきましては、平日が2日も少なかった。前年に比べますと。利用実数でございますので、学生及び通勤のかたが定期を利用されない、平日は利用されないということがございまして、特に粟生線については、学生の定期利用の比率が高いということで、そのかたがたの利用が2日分なかったというようなことが大きく影響をしております、マイナスになっておるとおられるところでございます。

それから、12月については、11月から比べると、大きなプラスになっておるとおるところでございますけれども、これにつきましては、特殊要因がございまして、去年の12月に三木、小野間で踏切の工事をするために、電車を止めて工事をさせていただいたということがございます。もともと計画では2日運休をさせていただくという予定だったんですけども、工事のほう、何とか早めまして、1日ということで1日だけの運休ということになりましたけれども、その影響がございまして、前年はその分の利用が少なかったということがありますので、今年度はその分がプラスに働いておるとおることですので、対前年に比べますと、1.4%と、ほかの月に比べると、やや多めのプラスになっておるとおるような状況でございます。

3ページ目に定期と定期外ということでお示しをさせていただいておりますけれども、定期外のほうがややマイナス、定期のほうは、対前年ですけれども、プラスになっておるとおることですのでございまして、これについては、4月末に回数券の発売を終了させてい

いただきましたので、回数券のかたが定期のほうに幾分移られておるといふようなことで、定期のほうはややプラス、定期外のほうはマイナスになっておるといふような状況かなといふふうに分分析をしておるところでございます。

続いて、4ページを御覧ください。

4ページにつきましては、2025年度4月から12月の状況について、駅別、券別のものをお示しさせていただいております。

下の表でございますけれども、色をつけておるところでございますけれども、それぞれ神戸市、三木市、小野市の利用比率でございますけれども、利用比率については、年度でそれほど大きく動いておるといふことではございませんけれども、やや三木市の比率が減っておるといふところがございます。前回に比べますと、マイナス0.2%という比率ではございますけれども、減っておるといふような状況でございます。

続きまして、5ページ目を御覧ください。

これについては、さきほど2ページ目にお示したものの対前年度の増減をお示しさせていただいております。下の表が駅別というところがございますけれども、神戸市内の駅が相対的にプラスになっておるといふところがございますけれども、この大きな要因としましては、やはり通学定期の無償化の影響が大きいのではないかなといふ分析をしております。

また、神戸市内の駅の中では、藍那駅が7.1%ということで、大きな伸びを示してございますけれども、これについては、利用者数については、もともと少ない駅でございますので、少しの増加で大きく出ますけれども、この要因としましては、藍那駅の小学校の生徒数が37名から46名ということで、9名増加をしております。この影響が大きいといふ分析をしているところがございます。

それから、続きまして、木津駅でございますけれども、これにつきましては、サントリーレディースオープンの来場者数が減少ということで、今年はやや天候の問題もあって、前年に比べると減少しておりますけれども、定期外が比較的堅調に推移をしております。特に12月が大きく増加をしておるといふことで、比率でいいますと、18.2%という大きな伸びを示してございます。この要因といたしましては、神戸市の第二学校給食センターが新設されました。本格稼働は1月からとお伺いしておるんですけれども、12月からは事前の研修が始まっておるといふことで、その利用があったといふ分析をしておるところでございます。

続いて、三木市でございますけれども、三木市については、緑が丘がマイナス3.1%というマイナスになっておりますけれども、これは、三木北高校が三木総合高校に統合されたという影響がありまして、1学年、110名が減少をしておるということで、その分がマイナスになってしまっているというところでございます。

ただ、本来ならば、その分が三木総合高校に移転をしてるはずなので、志染がプラスになってもおかしくないですけれども、実は、三木総合高校については、クラス数としては2クラス増えたとお伺いしているんですけれども、生徒数については、ほぼ以前のままの状態であるとお伺いしていますので、実は志染については、統合の効果が出ていないというようなことで、少し学生の伸びがないということで、住民の利用も少し減少ぎみで、マイナス1.7という数字になっておるというところかなというふうに思います。

それから、小野市でございますけれども、小野市については、若干ですけれども、マイナス0.3という伸びとなっております。ただ、これまで堅調に推移しておりました檜山でございますけれども、マイナス3.3という数字になってございます。この駅については、匠台の工業団地にお勤めのかた、特に外国のかたが多く利用をされておるという状況でございましたけれども、やや最近になって、その外国人のかたの雇用状況等が少し変化をしてきているのかなというふうに考えておりますけれども、これについては、正直なところ、あくまで推測でございまして、実態はちょっとつかめておりませんので、もし何かお気づきのかたがおられましたら、また教えていただけたらと思いますので、よろしくお願いをいたします。

以上、簡単ではございますけれども、粟生線の利用状況について御説明をさせていただきました。

○会長

はい、ありがとうございます。

この御報告について、何か御意見ございますでしょうか。

はい、どうぞ。マイクが行きます。

○●●委員

神戸市都市局の●●です。よろしくお願いします。

前回、55回の活性化協議会の中で神戸電鉄様のほうから粟生線の2024年度の利用者数のコロナ前との比較がマイナス9.7%と資料でお示しいただきました。

今回、さきほど御説明いただいた資料の3ページですけれども、粟生線の御利用状況の3ページで、2025年度のベースとした2029年度に対する増減率がマイナス11.4%となってございまして、御説明の中では万博の影響で利用者数が増えている等々あったんですが、そのような影響を含んでも、マイナス11.4%ということで、昨年度より減っているように感じたのですが、そのような特異な増員の影響を除外すると、実際にはどれぐらいのマイナスになるのかというのを教えていただきたいです。

○会長

どうぞ。

○●●委員

さきほども少し御説明させていただきましたけれども、万博の影響というのが定量的に押さえられてないものですから、特殊要因を除くということができかねます。ただ、19年度と比べると、まだ11.4%ということで、要するに、コロナ前から比べると10%以上減少しておるといってございすけれども、これについては、正直申し上げると、やはり沿線の人口が年々少なくなってきておるといのは明らかでございすので、沿線人口が、場所によって大分違うとは思いますが、やはり1%台から2%台の減少が続いておるといって、少なくともその影響は粟生線の利用、粟生線だけではなくて、弊社全体でもそうなんですけれども、その傾向はあるのですけれども、そういう形毎年、少なくとも1%台、あるいは2%台のマイナスが続いて、継続的に続いてきていくとするならば、コロナ前からの減少率をそのまま、コロナがなかったとしてリニアに引くと、ちょうど今ぐらいの利用数になりますので、そういう意味でいうと、コロナの影響がほぼなくなったのかなということで弊社では分析をしておるところでございす。

○会長

ありがとうございます。

よろしいですか。はい。

ほかにございすか。

突然振ってあれですけど、●●さん、今、工業団地の話が出たので、何かもしお気づきの点がありましたら、お願いします。

○●●委員

小野商工会議所の●●です。御指名いただきまして、ありがとうございます。

今、お聞きしながら、事務局からの報告を思い浮かべながら思っていたんですけど、正

直申し上げて、工業団地、5,500名いましたのが、今、5,000名に減っています。それは、各事業所がこれだけ人件費が高くなっていく中で、削減していこうということで、デジタル化を含めて、合理化していつているということで、全体数が減っているのは間違いないです。

じゃあ、それが全てここに響いてきているのかどうかというのは、私の今の報告の中では分からなくて。ただ、数字を見ただけで、樫山と市場の乗降客が減っていて、小野が増えてますけど、たぶん小野市内にアパートとか見つけられて移動されているのかなど。それぐらいしか思いつかなくてですね。本当、この原因につきましてはまだ分かりませんので、一度帰りまして、また調べて、次回でも御報告できればというふうに思います。

○会長

ありがとうございます。

突然振ってすみません。

○●●委員

すみません、ありがとうございます。

○会長

よろしいですか。

○●●委員

はい、さきほど、やはり全体の工業団地の従業員が減られているということなので、その影響は少なくとも市場と樫山、両方に明らかに出てきているのかなというふうに思っています。

はい、ありがとうございます。

○会長

ありがとうございます。

ほかに御意見ございますでしょうか。率直な感想等でもけっこうですので、今後生かしていきたいと思います。

はい、どうぞ。

○●●委員

もう一点よろしいですか。

最近の状況ですけども、11月以降については、やや今年度の前半に比べると、利用状況があまりよくない状況でございます。これは、万博が終わったということもあるんです

けども、それ以上に我々として少し気になっておりますのが、ガソリン価格でございます。やはり、11月、12月とこうずっと下がってきておまして。以前は170円台、ガソリン10リットル170何円しとったところが、今はもう140円近くまで落ちてきていますので、今まではガソリンがそこそこ高かったということもあって、車利用よりも電車利用ということで御利用いただいてたかたが、寒くもなってきましたので、車利用のほうがと、ガソリンも安くなったことだしということで御利用されている可能性があるんじゃないかなというふうに分析をしておるところでございます。

今後1月以降の状況もしっかりと見ながら分析をさせていただきたいなというふうに思っております。

○会長

はい、ありがとうございます。

ほかに御意見等ございますでしょうか。

(「なし」の声あり)

○会長

では、一旦次に移らせていただきます。

令和7年度協議会事業ということで、アからオまでありますが、まずア、イ、ウについて事務局から説明をお願いします。

○事務局

では、失礼いたします。ここからの説明は、三木市交通政策課の●●から説明させていただきます。

以下、着座にて御説明いたします。

では、まず私のほうから、資料4を用いまして、今年度、兵庫県立三木東・三木総合高校様と連携した取組についてということで、御報告をさせていただきたいと思えます。

この取組自体は、この公共交通計画の中で市民、行政、事業者等の連携による地域公共交通の活性化という方針の中で、粟生線に親しみ、愛着を抱く取組の推進といったような施策の中の一つの取組として御報告させていただくものでございます。

内容といたしましては、冒頭、記載しておりますとおり、通学利用の中心であります高校生に対しまして、日常生活の中で公共交通が地域資産として身近に感じていただけるような、マイレール意識の醸成といった目的と、粟生線への愛着心の向上を図るといったところを目的といたしまして、県立三木東・三木総合高校との連携により、大きく2つの取

組をしてまいりました。

まず、1つ目でございますけれども、見出し1のところに記載しておりますとおり、三木総合高校、今年の新入生になりますけれども、1年生の美術部の生徒様と連携させていただきまして、志染駅にございます粟生線利用促進看板というものがもともとあったんですけれども、それが今年度、老朽化によりまして撤去されましたので、それに伴いまして、新たに同じく看板を同校の美術部1年生4名にそれぞれデザインいただきまして、その絵をそれぞれレイアウトしたような利用促進看板を掲出しております。

どのような看板かは右下に絵を載せておりますけれども、お披露目といったところに書いてございますような右側の看板がデザインされたようなものになってございます。

当初は、美術部の生徒様にお描きいただいた絵、1つを選んで看板にする予定であったんですけれども、皆様、画力が非常に高く、なおかつ、美術部の顧問の先生も、ぜひ4名のそれぞれの特徴が出ている絵になりますので、それをぜひ載せてほしいといった御要望もいただきましたので、このような4名それぞれのデザインをレイアウトさせていただいた看板を掲出しております。

その画像の左側には、生徒様、モザイクはかけさせていただいておりますが、お描きいただいた生徒4名のかたと美術の先生にお越しいたいて、お披露目式といったような、簡素なものではございましたけれども、実施させていただいております。

以上が1つ目の御報告でございます。

その下、三木東・三木総合高校との連携の2つ目でございますけれども、これは昨年度から取組をしているところになりますので、もしかしたらお聞きになられたことがあるかたもおられるかもしれませんが、三木東高校の地域活性という授業を選択されている高校3年生の生徒さんによる利用促進活動を活性化協議会と一緒にさせていただいた内容になってございます。

具体的には、下2つの大きなイベント、1つ目が神鉄トレインフェスティバル、これは10月12日に開催されたものでございます。もう一つが、三木金物まつり、これは11月1日と11月2日、2日間にわたって開催されたイベントでございますけれども、こちらに粟生線の活性化協議会のブースを出展しておりまして、そちらのブースで生徒様が御自身で制作された粟生線沿線の魅力発信の動画を放映させていただいたりですとか、生徒様がデザインをされたオリジナルの缶バッジの贈呈、そのほかには、子供向けの輪投げといったような、ミニ縁日のような運営をしていただいたりですとか、特製缶バッジの塗り

絵、これは主にお子様を対象としたものになりますけれども、缶バッジに塗り絵を塗ったものを製作機、缶バッジ製作機で独自の缶バッジを製作するといったようなものでございますけれども、こういったような運営のところに携わっていただきました。

そのほかは、神鉄トレインフェスティバルにおきましては、昨年度に引き続きまして、今年度は鈴蘭台車庫と、もう一つ谷上のところでも2か所同時開催しておったんですけれども、主に鈴蘭台車庫の大きなイベントのほうで当日のイベント運営自体にも携わっていただいたといったところをさせていただいております。

イベントの様子等は、下のほうに写真を載せておりますので、ぜひ御覧いただければと思っておりますけれども、お聞きしている話では、神鉄トレインフェスティバルでは、2会場合計で4、200名ほどの御来場をいただいている中で、520組ほどのかたが粟生線活性化協議会のブースにお立ち寄りいただいたといった結果となってございました。

三木東高校・総合高校との連携のお話は、以上とさせていただくんですけれども、少し資料、裏面を御覧いただければと思っております、こちらは情報提供のみとなりますけれども、委員様でもおられます兵庫県立小野高校様が、協議会と連携したわけではないんですけれども、独自で神戸電鉄の市場駅という駅がございますが、そこからすぐ目と鼻の先にあります空き農地を活用いたしまして、そこにコスモスをお子様たちと一緒に植付けをして、お子様とその保護者様を巻き込んだような独自のイベントを実施されておりますといったところを小野市様から情報提供をいただいておりますので、その内容を簡単に記載してございますので、よろしければ、また後ほど御覧ください。

資料4につきましては、以上とさせていただきます。

続きまして、資料5をお手元に御用意いただければというふうに思います。

資料5では、企画乗車券の販売等についてといったところの御報告をさせていただきます。

まず、「おもてなしきっぷ」の販売というところでございますけれども、こちらの切符については、第54回、今年度一番はじめの協議会で今年度取組方針のところでも少し触れさせていただいておりましたけれども、本年度につきましても、「おもてなしきっぷ」を販売させていただきました。

なお書きのところに記載しておりますけれども、本年度につきましても、神戸市交通局様との連携を継続させていただいたほか、神姫バス様、神姫ゾーンバス様にもお力添えをいただきながら連携させていただいた企画乗車券の内容拡充をそのまま継続させていただ

いております。

まず、(1)にございます販売内容及び販売料金についてでございますけれども、大きく2種類ございます。まず、1つ目が神戸電鉄版といったものでございます。もう一つが、神戸市営地下鉄版、この大きく2つ、2種類を販売してございました。

神戸電鉄版につきましては、神戸電鉄1日乗り放題の乗車券に加えまして、おもてなしメニュー引換券、これは600円相当のおもてなしメニューと引換えができるといったようなチケットになってございます。それから、神姫路線バス割引券がセットになったといったような内容で発売いたしました。

それから、神戸市営地下鉄版につきましては、さきほどお伝えした神戸電鉄版に加えまして、神戸市営地下鉄の1日乗り放題となるような券がプラスアルファでついているといった内容となっております。

販売期間でございますが、昨年7月12日から本年の1月12日まで販売をしたといったところでございました。

資料一番下の販売実績でございますけれども、資料のほうに4,932枚といった記載をさせていただいております。更にそのすぐ隣に、神姫路線バスでの割引券の適用を受けられた件数ということで、着券枚数と書いておりますけれども、74枚の利用があったといったところでございます。

販売枚数につきましては、下のほうに参考で令和6年度の実績、6,350枚と記載しておりますけれども、近年、2年ほど新たな連携によって数字自体は伸びていたところだったんですけれども、今年度は少し減少といった傾向となっております。

ただ、約5,000枚の販売実績は保っております、これは令和4年度を超えるような実績となっておりますけれども、それほどの販売実績がございますので、今後も利用者のかたの動向には注目しながらになりますけれども、販売自体は継続をしてみたいなというふうに考えてございます。

続いて、資料裏面にまいります。

もう一つの企画乗車券の販売ということで、こちらは三木市の独自の分にはなりませんけれども、三木金物祭り1dayチケットの販売ということで御報告をさせていただきます。

内容といたしましては、11月1日、2日に開催いたしました三木金物まつりと連携いたしました、チケットの販売とまつり会場へのブース出展に取り組んでまいりました。

販売内容につきましては、記載のとおりでございますけれども、そのうち、カのところにあります特典といったところを御覧いただければと思いますけれども、この1dayチケットを購入していただいたかたには、そのチケットを持ってきていただけましたら、ガラガラ抽せん券といったものができますので、その抽せんに参加いただいて、協議会オリジナルのグッズ、タンブラーですとか定規といったもの、いろいろ各種御用意しておりますけれども、そういったオリジナルグッズをお持ち帰りいただくといった取組をさせていただきました。

それに加えて、今年度は神戸電鉄様が隣ブースで販売しておられたんですけれども、神鉄グッズを購入されたかたを対象に、ガラガラ抽せんに参加いただけるような取組に拡張いたしまして、神戸電鉄様のブースに来られたかたも、粟生線の活性化協議会のブースにお立ち寄りいただけるような形の連携をさせていただきました。

1dayチケットの販売実績でございますけれども、販売実績は181枚ということでございました。

また、下のほうに本協議会のブースと神戸電鉄様のそれぞれのグッズ販売のブースの出版等について掲載させていただいておりますので、またよろしければ御覧いただければというふうに思っております。

資料5につきましては、以上とさせていただきます。

続きまして、資料6を用いまして、クリスマス装飾列車及び特別列車、「電車に乗ってハッピークリスマス」の運行についてといった内容の御報告をさせていただきます。

こちらの内容についてですけれども、まず、クリスマス装飾列車についてでございますけれども、クリスマス装飾列車自体は、沿線地域の幼稚園ですとか保育園、及び保育所の御協力の下、運行をさせていただいたような列車でございます。

クリスマス装飾列車の取組ですけれども、まず運行期間といたしましては、昨年12月1日から12月25日までの間、この装飾列車を運行しております。

3番のところがございます装飾内容というところでございますけれども、どのような装飾をしているかと申しますと、お子様のサンタクロースへの願い事でありますとか、メッセージを載せたようなポスターを車内づくりのところに、車内に掲出させていただいたりですとか、あるいは車窓をクリスマスの装飾シールで飾ったりですとか、そういったような装飾を行った列車となっております。

この装飾に当たって御協力いただきました幼稚園等につきましては、全部で15園に御

協力をいただいたといったところでございます。

続きまして、次、裏面に移ってまいります。続いて、「電車に乗ってハッピークリスマス」の御報告でございます。

この「電車に乗ってハッピークリスマス」でございますけれども、こちらは、12月13日、一日限りの特別列車、イベント列車の運行ということでございます。

内容といたしましては、さきほど御説明させていただいたクリスマス装飾列車を用いまして、その中に、その列車を活用して、神戸電鉄公式キャラクターの「しんちゃん」との記念撮影でありますとか、三木市出身の●●さんによるクリスマスソングを楽しんでいただくような企画をさせていただいております。

なお、イベントの運営に当たりましては、神戸電鉄親善大使のかたにも御協力をいただいたということでございます。

具体的な行程等につきましては、3番のところの記載にございますけれども、西鈴蘭台発の列車、小野駅発の列車、志染駅発の列車、大きく3部構成になってございまして、それぞれ定員が40名ずつということでございましたけれども、いずれも即日完売といったところで、非常に人気の企画となっております。

引き続き、お子様等を対象にしたような、こういった取組も継続していきたいというふうに考えてございます。

ひとまず御報告ア、イ、ウにつきましては、以上でございます。

○会長

はい、ありがとうございます。

これらア、イ、ウについて、御意見、御質問があれば、挙手にてお願いします。

はい、●●委員。

○●●委員

神戸市都市局の●●です。

資料5の企画乗車券の販売で、おもてなしきっぷの販売実績が4,932枚というふうに御説明いただきました。このおもてなしきっぷは、神戸電鉄全線で御利用いただけるし、その沿線の施設利用ができるということなんですけど、粟生線の利用促進という趣旨なので、どの程度、粟生線で御利用いただけているかというようなアンケートの調査とか、そういったことがされているかというのが一点と。磁気券でずっと販売されているものを、もうちょっと新しい技術といいますか、QRコードでスマホで券が買えるとか、そ

ういった新しい技術を取り入れるということを今後の、冒頭にあったような、地域交通計画の中に盛り込むとか、そういう視点があるのかどうかというところも教えていただきたいです。

○会長

はい、ありがとうございます。

2点の御質問。はい、事務局、どうぞ。

○事務局

御質問ありがとうございます。

まず、1つ目のアンケートの実施状況についてなんですけれども、実際は、このアンケートを取っているかという、結論としては、持っていないという結論になっております。ただ、利用者様の御意見等も反映していく必要があるかと思っておりますので、そのあたりは、イベントを実施していただいているところと少し相談はしたいというふうに考えておりますので、今後の検討材料としてさせていただきたいというふうに考えております。

もう一つ、M a a sの関係の取組に近づくものかなと思っているんですけれども、過去に1度、磁気券から、新しくそういったM a a Sへの取組に変換できないかといったような意見は上げさせていただいてあるというふうには聞いてはいるんですけれども、まだ具体的に機械の対応もそうですし、おもてなしを提供する事業者さまでの対応等も含めて、そこはまた調整がし切れなかったといったところもあるので、まだそこに関しても、今後考えていかないところではあるかなというふうには思っているものの、まだ具体的にどういうふうにしていこうといったところまでの結論は出せていない状況でございます。

○会長

よろしいですか。はい、どうぞ。

○●●委員

前者の質問で、毎回、沿線に御協力いただける施設がたくさんあるんですけど、どの程度、利用されてるかとか、もっとどういうふうな魅力的な施設を入れたいいけないというところは、必要最低限の情報かなと思いますので、ぜひ、なかなかデジタルですぐに取り組むというのは難しいことは承知してるので、アンケートで把握するという取組なんかをぜひお願いしたいなと思いました。

○会長

どうぞ。

○事務局

承知しました。ありがとうございます。

○会長

はい、貴重な意見、ありがとうございます。

ほかに御意見、御質問ございますでしょうか。

(「なし」の声あり)

○会長

はい、では、まず次に移らせていただきます。

次はエですね、サイクルトレインの実証実験ということで、よろしくお願ひします。

○事務局

神戸市交通政策課の●●から報告させていただきます。

着座にて報告させていただきます。

資料7になります。

通常列車でのサイクルトレインの実証実験の内容については、前回、交付させていただきました1、2に実験概要を書いておりまして、1日12便、4日間やっております。1列車につきは制限がございまして、自転車2台ということで、あとは車内に係員を配置して、車内でサポートすることとか、利用が少ないところについては、係員なしで実施したというところがございます。

鈴蘭台西口から粟生駅のうち、乗降可能な駅というところで実施をしております。

4番目ですね、この実験による参加者につきましては、利用者数、延べ24人ということになっております。

利用時間帯ということで、下り、粟生方面に向かっていく9時台、10時台が大体50%ぐらい使われたと。それから、上りですね、帰り、15時、16時台について、鈴蘭台方面に向かうのが37.5%ということになっております。

裏面でございます。そのときの乗車状況を張りつけております。優先座席を設けて、自転車を固定して、御自身で乗車いただいているというところがございます。

それから、2枚目になります。アンケート調査の結果というところがございます。利用者の感想というところで、利用されたかたから聞いているというところで、満足されたかたが84%というところと、9割が阪神間からお越しになられたというところになってお

ります。主な感想というところもお聞きしておりまして、サイクルトレインに乗ってよかったと、便利と、いつものサイクリングに行動範囲が広がったというところでもございました。その反面、今回、鈴蘭台、粟生線から御乗車いただいたということで、できれば湊川から乗車したいとかですね。満席の場合は、ほかのお客さんに気を遣うというところ。それから、1週間前の予約締切り、乗降駅など制限があり使い難いというところ。それから、もっと周知してほしいということで、協議会のホームページとか、自治体のホームページ、新聞とかサイクルショップなんかで周知はしましたが、もう少し周知してほしいという意見もございました。係員がいなくても、特に問題ないが、固定は少し手間取ったというところもございます。

それから、一般客の反応でございます。自転車の持込みはよいというかたが半分以上おられました。座席の前とかドア付近に立っておられても、それでもいいと。人がおられても、立っている人がいてもいいのではないかというかたが半分以上おられました。ただし、状況によるとか、悪いというかたもおられまして、そういうかたがたは、混雑しているときとか、自転車が座席からちょっとはみ出て、通行の支障になるというような場合には、ちょっと懸念するというようなことがありましたが、今回は、全てこの辺は解決できていたということで、この下のアンケートの結果ですね、緑の部分が今回、対応できていたところ。黄色の部分については、今回もできてなかったというかたがお一人おられたというところもございます。

今後の取組についてということで、今回の運用であれば、通常列車に自転車を持ち込むことが可能であると確認できたのではないかなと思っております。

次年度も通常列車での実証実験を継続していき、より多くのかたに御利用いただけるように運用や周知方法の改善を図るとともに、引き続き事業継続性について検証していきたいというふうに考えております。

サイクルトレインについての報告はこれで終わらせていただきます。

すみません、それと一つ、さきほど神戸電鉄様のほうから粟生線の利用実績の話で、藍那駅の児童の利用が増えているという話がありました。藍那小学校が小規模特認校ということで、外部から広く来られるということもあって、こちらのほう、今年度、美装化の整備をしたいというふうに考えております。これは、ふるさと納税の寄附金を使いまして、神戸電鉄さんに支援して、この3月に実施していただこうと思っております。乗降客数が非常に、沿線の中で最少で少ないんですけども、暗い雰囲気もあるとか、老朽化していると

か、子供たちが通うということもあって、美装化していただくというふうに思っております。

このふるさと納税の寄附金を使って、本年度は藍那駅なんですけども、来年度は鈴蘭台西口駅のほうについても、老朽化が進んでいますので、このふるさと納税の寄附金を使って神戸電鉄さんに整備していただくというふうに思っております。

以上でございます。

○会長

はい、ありがとうございます。

この件につきまして、御意見、御質問がありましたら、挙手にてお願いいたします。

はい、どうぞ。マイクが行きます。

○●●委員

座ったままですみません。緑が丘地区、区長協議会の●●と申します。

サイクルトレインに関しては、僕はあまりイメージが分かってないんですけども、全車両がサイクルトレインの対象になるか。例えば、3両あったとして、1車両だけがサイクルトレインの専用の列車になるのかというところが知りたいなと思って、御質問をさせていただきます。

これ、またこれに関連づけて質問したいことがあるんですけども、その辺、教えていただければうれしいかなと思います。すみません。

○事務局

御質問、ありがとうございます。

サイクルトレインについては、今回、実験ということですので、一番先頭の車両のみ。それから、座席シートですね、のところに2席、オレンジのシートを設けて、そこに座っていただくということで、全車両ではなく、一番前の車両だけということでございます。

○●●委員

ありがとうございます。

これに関連づけて御質問したいんですが、さきほどいろいろ神鉄のかたのお話とか伺うと、例えば2026年度でいうと、万博のようなイベントであって、そういう需要が見込めないのと、それから、三木北高校、私、緑が丘なんですけども、三木北高校の生徒さんは、より減っていく。今は2学年と3学年なんですけど、来年度になると、更に減って3学年だけになる。当然、需要が見込めないというのと、ちらっとおっしゃっていた人口

減、沿線の人口減によって、恐らくそんなに飛躍的に乗客が増えるというの見込めないのかなと思ったときに、同じ電車を走らせるときに、電車って、自動車なんかと比べると、本当に時間が正確で、きっちり、渋滞とかもないですから、その点、すごい魅力的な乗り物だと思っています。

人を運ぶという発想だけじゃなくて、もしかしたら以前にやったのか、私はまだ55回と56回しか参加させてもらってないので、今までの流れが分からないんですけども、例えば物流であったりとか、物を運ぶという発想で何か収益を得るとかという感じのことがあればいいのかなと。それは、さっきのサイクルトレインの1両を利用してということであると、例えば乗客と一緒に物を運ぶというところで有効に活用したら、もっと収益が得られるのかなというふうにちょっと思ったので、それにサイクルトレインで質問させていただいたと。

だからそのあたりはどういう感じのかなというのを教えていただきたいなと思って、すみません。

○会長

貴重な意見、ありがとうございます。

これは、神戸電鉄さんをお願いします。

○●●委員

今、全国的に列車を使って物流ということでやられてる。特に新幹線を利用してということで、産直で需要の高い東京に運ぶということで利用されています。弊社においても、物流の可能性ということで、試験的な運用はこれまで少しやってみりました。粟生線ではないんですけども、三田線と有馬線を使って、神戸市北区の農産物を兵庫区のほうに運ぶというようなことで、試的にいろいろやっておるんですけども、一つやはり難しいのは、駅まで持ってくる手間、それから駅に着いた後、取りに来る手間というのが、これが弊社の従業員ではなかなか、運転士が一人だけですので、積み込みがお客さんと同じスピードで積み込んでいただかないと、電車が遅れると、こういうことになりますので。なおかつ、電車の中では、その荷物が動かないように固定をしないとイケないと。こういうことになりますので。試験のときは、人がついて、荷物を載せてというような状況でやって、試しはやったんですけども、要はそこで事業採算性からいいますと、人を張りつけないとイケないということになってくると、明らかにトラックで運んだほうが安くなるということがありまして。

そういうこともあって、なかなか採算性のところで、やはり物流ということに関しては、少し近郊鉄道でやる場合については問題があるのかなど。新幹線のように、遠くのもの、朝採ったものを、その日のうちに届けるというようなことであれば、かなり付加価値がつくんですけども、なかなかそこら辺はちょっと難しいのかなというところで、これからのいろんな試しはやっていきたいなというふうに思っておりますけれども、今のところ、そういうふうな事業的にはちょっと難しいかなという状況でございます。

○●●委員

せっかく列車が走ってるのに、人がまばらで空きスペースがあるのに、このスペース、使わないもったいないなという発想で、ちょっとそういう素人みたいな発言をさせていただいてすみません、ありがとうございました。

○●●委員

いいえ、すみません、ありがとうございます。

○会長

ありがとうございます。

貴重な意見、ありがとうございます。私もそうですけど、素人の意見が大事ですので、よろしく願いいたします。

ほかに御意見、本当にお気軽に御意見、御質問ありましたら。

(「なし」の声あり)

○会長

では、まずは次の報告事項のオに移らせていただきます。

これも事務局から報告をお願いします。

○事務局

失礼いたします。

続きまして、報告事項の3のオのところですね。右肩、資料8を御覧ください。

私のほうから令和8年度栗生線アトラインプロジェクトの実施について御報告させていただきます。

これにつきましては、昨年度の協議会におきまして取組方針として掲げたとおりでございますが、利用者の快適性の向上と栗生線への愛着心やマイレール意識の醸成を図るためということで、子供や子育て世代をターゲットとした、修繕のみならず、デザイン面でも趣向を凝らした特徴のある駅づくりを目指したということの内容でございます。

本年度の実施駅、開催日につきましては、神戸電鉄さんが独自に工事をされておる関係もありまして、今年度は三木上の丸駅、開催日につきましては、令和8年3月14日、土曜日を予定しております。

この今回の企画の概要、趣旨でございますが、アーティストのかたにライブペイントということで、実際に作品を制作していただいた後に、子供たちを対象といたしましたワークショップを実施しまして、アーティストと子供たちが一緒に作品をつくり上げるということで、子供たちの粟生線への愛着心や芸術への感性を育みながら、デザイン面でも特徴的な駅づくりを目指すというものでございます。

また、粟生線が単なる移動手段としてではなく、粟生線を利用する楽しみや粟生線を利用するたびに、新たな発見につながるような企画となるように取り組みたいというふうに考えております。

また、今回の企画につきましては、三木の特産品であった染形紙を活用する予定でございます。また、駅舎内壁面へのアートパネルの制作と実際の張りつけを行うというものでございます。

実施内容につきましては、すみません、別紙チラシのとおりというふうに書かせていただいておりますが、チラシのほうもう少し間に合わずということで、本日の配布のほうは割愛をさせていただきたいと思っております。申し訳ございません。

なお、事業主体につきましては、令和6年度、昨年度も木幡、志染、小野駅で実施しておりますが、そこと同じきたすザランド株式会社のほうに今年度も運営委託をするようなものでございます。

最後になりますが、今後のスケジュールでございますが、3月14日、土曜日にワークショップのイベントをみき歴史資料館のほうで実施しまして、3月27日の金曜日に実際に上の丸駅舎へ掲出をする予定でございます。

最後にですが、少し余談になりますが、本日、会長のほうから少し御挨拶の時にもありましたとおり、三木染形紙展を三木上の丸駅から徒歩で5分程度の堀光美術館のほうで2月14日から3月8日開催をしております。イベントの少し前に終わってしまうんですが、今回、染形紙のほうを活用する予定でございますので、興味のあるかたは、ぜひ上の丸駅まで神戸電鉄粟生線を利用していただきまして、見に来ていただければなというふうに思っております。

私からの説明は以上でございます。

○会長

はい、ありがとうございます。

あと、資料9もありますけど、どうです。木幡駅前イベント。せっかくですので、はい。

○事務局

それでは資料9でございます。

木幡駅でのイベントということで、実験的に実施しております。こちらのほう、押部谷地域の事業者とか住民のかたが主体となって、地域資源を活用したイベントを開催したということで、粟生線の利用促進、また駅の周辺の活性化を図るといったところでございます。

2番目で、地域の企業のかたとか農家のかたとか、物販・飲食ブースを出したり、あとは地元中学やアーティストによるライブステージを行ったというところでございます。

5月と11月に実施しまして、3の開催実績でございますが、このときの来場者数が2,000人と、運営者側での推計とありますが、来られたというところで。

あと、粟生線の利用というところなんです。木幡駅の乗客数が両日とも800人を超えるということで、例年では200人のところ4倍になったというところでございます。

今後の方向性ですけども、こういったイベントをすることで、にぎわい創出、粟生線の利用促進になるんじゃないかということで、次年度も春、秋の年2回、開催を予定しまして、こういったイベントを定着していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○会長

突然振ってすみません。ありがとうございます。

資料8、9と説明をいただきましたが、何か御意見、御質問等ありましたら、挙手にてお願いいたします。

はい、どうぞ。

○●●委員

資料8の関連でございますけれども、このプロジェクトについては、駅の内装について、こういう形で整備をしていただくということになってございますけれども、外壁のほうも木造の古い駅舎でございますけれども、かなり傷んできておりますので、これに併せて、今年度中に外壁のほうも補修をかけて、今回、せっかくの木造ですので、木目を際立

たせるような形で補修をさせていただきたいというふうに考えてございます。

○会長

ありがとうございます。

神戸新聞の三木支局の記者もおられますので、また取材もしてあげてください。よろしくをお願いします。

ほかに御意見、御質問ございますでしょうか。

はい、どうぞ。

○●●委員

すみません、訂正とおわびでございます。

さきほど議長のほうから当てられて、数字をちょっといいかげんなことを言ってしまいました。匠工業会は、ピーク時は6,300人で、500人減って、今、5,800人なんです。5,500人で500人減って5,000人と僕、報告しましたが、人数のほうは、ただいま5,800人でした。

あと、らんらんバスですね。粟生線を使って、らんらんバスを使って匠工業会という活動をやってきて、ほぼ10年たつんですけど、1万4,000人の乗降客、月2,100人が、今年度の実績でいきますと5,800人で、昨年度が5,500人でありますので、300人の乗降客が増えているということは、さきほどの電鉄さんの数字と合わないところがあるので、らんらんバスだけで使ってこられているのか、本当に粟生線を使ってくれているのか、そういったところをまた次回、宿題という形で工業会のほうでまた調べさせていただきたいと思います。

訂正とおわびでございます。申し訳ございません。

○会長

貴重な意見、ありがとうございます。

いや、言っていただかないと分かりませんので。例えばこの大村駅も少し減っているのも、あそこから小野工業団地に行かれてるかたもあるような話も聞きますので、やはり協議会でいろいろ分析して、みんなが利用しやすいようにしていきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

ほかに御意見、御質問等ございますでしょうか。

(「なし」の声あり)

○会長

はい、なければ、これで議事は終わりますが、せっかくの機会ですので、特に議事じゃなくても、何か御意見等ありましたら。

どうぞ。

○●●委員

神戸電鉄でございますけれども、今年度の粟生線の地域公共交通計画の中で位置付けていただいております新造車両の件でございますけれども、3両1編成、現在、車両メーカーのほうで製造が終わりまして、現在、鈴蘭台の車庫のほうに納入をしてくれておまして、現在、最終の確認と検査をしてくれておまして、3月中には何とか運行が開始できるのかなという状況まで来てございます。

ただ、運行日については、まだはっきりしていませんので、新造車両の装備の件も併せて、はっきりしました段階でプレス発表をさせていただきたいなというふうに思いますので、よろしく願いをいたします。

○会長

ぜひプレス発表もして、マスコミのかたにも来ていただければと思います。

ほかに御意見、御質問。

(「なし」の声あり)

○会長

なければ、閉会にわたる前に、今日は、●●先生、何もおっしゃられておられませんので、よろしいですか。

○●●委員

沿線でいろいろな組織のかたがたがいろいろイベントをやってくださってるのは、非常にありがたいと思うんですけど、イベントだけに頼ってるようでは、本当はよくないんで、やっぱり市民の生活の足をしっかりと支える神戸電鉄であり、沿線のバスでありということ、それにおいては、今度、地域公共交通計画が更新になりますけど、これまで、神戸電鉄にかなり軸足を置いて公共交通計画を立ててるんで、この3市の全体のエリア、全体の公共交通、それと今度は都市計画のかたがたも入って議論することになるんで、まちづくりの在り方と併せて議論をさせていただきたいなと思いますので、そのときには、たぶん皆様がたのいろいろお知恵を拝借すると思うので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

あと、磁気券は、そのうちたぶんなくなるんだと思うんですけど、この磁気券がなくな

ったときに、どういう体制とするのかというのは、装置の値段との絡みというのは非常に課題になっております。これは、この辺で決まる話ではないと思うんですけど、その点はまた新しい情報を得て、皆様かたで議論していただく場面が出てくるんじゃないかと思うんです。ちょっと情報提供ばかりですが、以上です。

○会長

はい、ありがとうございました。

では、マイクを事務局に返します。

○事務局

兵庫県さんのほうから報告があると聞いておりますので、最後にお問い合わせできますでしょうか。

○●●委員

すみません、兵庫県の交通政策課の●●です。いつもお世話になっています。

私のほうで参考で報告を、1枚物を後ろにつけさせていただいてるんですけども、ありますでしょうか。

前回の協議会のときにお知らせさせていただきました駅カードの配布をこの夏休みに行いました。全部で3線の49駅で、粟生線の対象は20駅あるんですけども、全部で1万400枚配布しまして、全部、1万378枚配布実績を上げれて、ほぼ全部全て配布できて、人気が高かったんですが、粟生線は特に人気が高くてですね、配布し始めて、お盆明けぐらいには、もう、すぐ、一月足らずで全て配布終了ということで、かなり粟生線を好んで、親しみのある電鉄というか、人気のある電鉄なのかなと感じているので、またこういった来場者が来るような人気の高いイベント企画みたいなのも考えていきたいと思っています。

以上、報告です。

○事務局

はい、ありがとうございます。

●●会長におかれましては、会議の進行、誠にありがとうございました。

閉会の挨拶に移らせていただく前に、すみません、本日、お配りしてる中で一言も触れてない資料がもう一つございまして、この神鉄カラーといいますか、三木フォトロゲイニング2026といったようなものも参考につけさせていただいております。これは、三木市が主になってしているものなんですけれども、今回につきましては、神戸電鉄様と連携

しながら、協力しながらという、御協力いただきながらということでの実施をさせていただいております。

申込期間はまだ締切りまでは来てないんですけれども、既に人気があって、定員に達したというふうに聞いております。こういう取組もしているということで、参考まで資料をつけておりますのでよろしくお願いいたします。

それでは、閉会に当たりまして、協議会副会長、小野市の●●副市長に御挨拶をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○●●副会長

小野市の●●でございます。

本日は貴重な御意見、たくさんいただきました。本当に皆さん、言われていること、全てが本当だなというふうに感じております。

特に、さきほどから話が出ております人口減少ということが日本国中ですごく話題というか、これからの危機になっておるところでございます。公共交通の最大の敵もやはり人口減少になっております。

今、人口を見ても、我々小野市でも、なぜ減少しているのかというと、出生率が低いですね。社会減よりも自然減というか、出生率が非常に低いと。合計特殊出生率も、やはり東京で1を割ったと言っていますけれども、小野市でも1を割ってくるような状況になってきております。

一方、65歳以上の高齢化の人口、増えてはいないんですけれども、しばらく減っていかないということで、65歳以上のかたは、これから何年後かもこのままの人数、若い層は、出生率が非常に低いので増えてこない。これを見ますと、さきほど藍那のほうで小学生が増えてという話をされてましたが、確実に定期券を利用する通学者は減ってくると。その次に、通勤者が減ってくると。これから非常に人が、人口がシュリンクしていく中で、どのように公共交通を維持していくかということが今後、20年後、30年後を考えていかないと、もう、人口を増やして乗降客を増やそうということは、なかなか難しいということが一点あると思います。

ただ、一方で、そのまま指をくわえて見てるわけにもいきません。我々も、従前から申し上げておりますように、工業団地の開発であるとか、イベント等でいかに電車を使っていただくかということで、らんらんバスを走らせたりとか、それから工業団地を開発したりとか、それからイベントで、さきほども少しありましたけれども、私どものほうも、も

う3月、4月にたくさん桜が咲き誇りまして、いい場所があります。昨年も7万人、8万人ぐらいのお客さんが、桜つつみ回廊というところがあるんですけども、昨年から駐車場を基本的には設けないと、市役所に止めてバスで輸送するか、電車でお越しくささいとということでPRしてございまして、今年度もまた別途、河津桜というところも、また別に小野駅の近辺にあるんですけども、そちらのほうも駐車場をクローズすると、一切使わせないということで、PRを公共交通機関でお越しくささいというふうに切り替えていくと、そういうことで、この季節、小野まつりであったりとか、マラソンであったりとかいこともイベントで使っていただいでるんですけども、それ以外にまだたくさんお客さん、お越しいただくところ、公共交通機関でお越しいただくような形でしてまいって、神戸電鉄を知っていただくということもございまして、そういうところでも考えていきたいと思ひます。

ただ、やはり、あつたら便利ではないですね。なかつたら困るということをお皆さんがやはり自覚していただくのが一番大事ですので、なかつたら困る。だから、残していこうということをお市民全体で考えながら、神戸電鉄を支えていかないといけないと思ひますので、この会議、これからもしっかりと議論していただいで、よりよい方向に進めようと思ひます。

本日はどうもありがとうございます。

#### ○事務局

●●副会長、どうもありがとうございます。

次回の協議会の開催につきまして連絡させていただきます。

今年度は、本日の協議会をもって終了なんですけど、来年度、6月頃の開催を予定しております。その際には御参集賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

それでは、以上をもちまして第56回神戸電鉄粟生線活性化協議会を閉会いたします。

本日は誠にありがとうございます。